



「緑の募金」使途限定募金(平成28年熊本地震復興支援事業)

復興アクション「森のチカラで、日本を元気に。」



緑の募金

“緑と木の温もり”で 熊本の復興を支援！

～使途限定募金(緑の募金)を呼びかける「くまモン」木製ピンバッチを製作～

平成28年4月14日から熊本県を中心に発生した平成28年熊本地震により、亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。

(公社)国土緑化推進機構では、この災害に対し、「緑の募金」としての支援を行うこととし、「**緑の募金**」**使途限定募金(平成28年熊本地震復興支援事業)**を行うこととしました。具体的な取り組みは、①被災森林の復旧に向けた緑化活動、②避難所や学校周辺における緑化活動等の支援を行うこととしています。

今回の震災においては、余震の長期化と家屋の損壊等による避難所生活の長期化等が懸念されることあり、避難所におけるプライバシー保護や生活環境の改善等のニーズが高まっています。

当機構では、平成23年の「東日本大震災」における支援実態と被災地からのニーズを踏まえ、当面の対応として、避難所等における間仕切りや生活用品を整理する棚として活用できるよう、**組立て什器(間伐材等を使用した木製キット)の寄贈等を行うこととし、熊本県西原村を皮切りに寄贈等を開始**したところです。

今後、継続して被災地の緑化支援を通じての復旧・復興支援を続けることとしておりますが、幅広く被災地の復旧・復興支援を呼びかけるため、そのシンボルとして、**熊本県産のスギを使用し、熊本県内で加工された「くまモン」の木製チャリティ・ピンバッチを制作**しました。そして、5月14～15日(土～日)に日比谷公園で開催される「**みどりとふれあうフェスティバル**」(農林水産省・林野庁等主催)から募金協力者への配布を開始します。

本取組の趣旨をご理解頂き、幅広いご支援の呼びかけに、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。



(熊本県産スギを使用したピンバッチ)



(阿蘇五岳と熊本城を描いた台紙)



(「くまモン」が呼びかける募金箱)

◆「くまモン」チャリティ・ピンバッチ 概要

1. 材料：熊本県産スギ
2. 製作：熊本県・小国町森林組合
3. 配布：1,000円以上の募金協力者に配布
4. 入手方法：以下のイベント等で配布します。
 - ①5/14-15 「みどりとふれあうフェスティバル」
(東京都千代田区「日比谷公園」)
<http://midorinokanshasai.com/>
 - ②5/16-20 農林水産省「消費者の部屋」
(東京都千代田区霞が関1-2-1)
<http://www.maff.go.jp/j/heyaa/>
 - ③国土緑化推進機構WEBサイト・申込フォーム
<http://www.green.or.jp/> (「トピックス」欄参照)

◆「緑の募金」使途限定募金

(平成28年熊本地震復興支援事業) 概要

1. 実施者：(公社)国土緑化推進機構
2. 開始日：平成28年4月19日
3. 使途等：①被災地の森林復旧に向けた緑化活動等
②避難所や学校周辺における緑化活動の支援
4. 実施形態：次の方法により受付
 - ①個人募金、②街頭募金、③企業募金、
④職場募金、⑤店頭募金、⑥協賛募金
5. 振込方法：郵便口座、銀行口座、インターネット募金等により受付
6. その他：詳しくは、「緑の募金」公式サイトをご覧ください。
<http://www.green.or.jp/bokin/>

◆間伐材等組立てキット「組手什」寄贈概要

宮城県・福島県・愛知県・鳥取県の生産者の協力を得て、避難所等におけるプライバシーの保護や生活用品の整理等を支援するために、「緑の募金」により、間伐材等を使用した組立て什器「組手什」の寄贈を開始しました。

【第1回寄贈 概要】

1. 寄贈日程

平成 28 年5月7日(土)・8日(日)

2. 寄贈先

熊本県西原村 山西小学校 避難所

3. 寄贈経緯

- ・西原村は、1,431 棟が全半壊の被害を受けるなど、長期的な避難者が多い地域
- ・避難所の統廃合(6ヶ所から3ヶ所)と小学校開校に合わせて、避難者の生活用品等を整理するとともに、プライバシー保護等が必要な状況
- ・このため、「組手什」の寄贈を要望

4. 組手什生産協力者

- ①宮城県登米市「登米町森林組合」
- ②宮城県栗駒市「日本の森バイオマスネットワーク」
- ③福島県古殿町「古殿町役場」
- ④愛知県名古屋市「組手什おかげまわし東海」

⑤鳥取県鳥取市「賀露おやじの会」

(※)①・②の団体は、「東日本大震災」の復旧・復興支援活動を契機に、「組手什」の生産をはじめた団体

5. 設置指導者

- ①愛知県名古屋市「組手什おかげまわし東海」
- ②熊本県熊本市「九州森林インストラクター会」

6. 寄贈結果

- ・生活用品の整理やプライバシー保護等のための整理棚としての「組手什」は好評を得た。
- ・自由に組み立てられる「組手什」の特色から、家族で用途を考えて、洋服かけや化粧棚、ランドセルを入れる棚などを自由に制作
- ・子どもから大人まで、また女性などの様々な年代の方々が参加して、楽しみながら組立て
- ・協力者や視察者等からも、他の避難所での寄贈要望が上がった

【今後の寄贈予定】

被災地・避難所等のニーズを踏まえて寄贈を実施



(宮城県登米市からのトラックが到着)



(各地で生産された「組手什」を荷卸し)



(子どもから大人まで参加して組立て)



(パーティション 兼 整理棚として配置)



(ランドセル等を入られる整理棚)



(洋服かけや化粧台等を兼ねたラック)



(食器・食品等を整理できる棚)



(傘立てとしての使用)



(下駄箱や新聞ラック等としての使用)

◆本件に関するお問合せ先

公益社団法人国土緑化推進機構 (担当:募金部 秋元・小林、政策企画部 富永・木俣)

TEL:03-3262-8451 FAX:03-3264-3974 E-mail:bokin@green.or.jp

平成28年熊本地震の概要と「緑の募金」の取組

平成28年4月14日から発生している「平成28年熊本地震」では、熊本・大分両県に甚大な被害が生じ、多数の家屋が全半壊しました。

このため、避難所生活の長期化が推察されることから、生活環境の改善に向けた様々な支援が要請されています。

(公社)国土緑化推進機構では、東日本大震災において、避難所等における生活環境の改善に向けた様々な木製品の寄贈や緑化の支援等を行ってきたところであり、「平成28年熊本地震」において、その経験を活かした復旧・復興支援に貢献するため、「緑の募金」使途限定募金(平成28年熊本地震復興支援事業)を実施します。



間伐材等組立てキット「組手什(くでじゅう)」による支援

避難所の状況

避難所での生活は、24時間開放空間であるため、身体面に加えて精神面でも過大な負荷がかかります。また、物を収納する仕器も無く、段ボールに囲まれた生活を余儀なくされている場合も少なくありません。

そこで、東日本大震災では、避難所でのプライバシーの保護や生活用品の整理のため、また災害ボランティアセンターでの救援物資の整理のための棚として寄贈されて重宝されたのが、間伐材等による組み立てキット「組手什」です。



組手什の特徴

「組手什」は、小学校低学年からご高齢の方まで「①誰でも簡単に組み立てられる」こと、避難者のニーズに合わせて、カットしたり組み合わせたり「②自由にサイズを調整できる」こと、そして接着剤を使わないため、避難所から仮設住宅、恒久住宅へと移り住む際にも分解すれば、また形を変えて「③再利用できる」ことが特徴です。



東日本大震災の事例から

様々な復旧・復興に向けた支援を行います



緑化 プランター等の寄贈

間伐材を利用したプランター等の寄贈で、緑の潤いのある避難所づくりを支援します。



緑化 避難所や学校周辺の緑化

避難所の住民同士の交流や緑豊かなまちづくりに向けた緑化活動を支援します。



木づかい 木のおもちゃ等の寄贈

親子の心のケア等に資するため、被災地に木のおもちゃを寄贈します。

組手什とは

組手什は、間伐材や製材時の端材などを有効活用することや、森林整備を促進することも目指して考案されました。

組手什は、右図のような長さ約2m×幅40mm×厚さ15mmの間伐材等に、“組手”とよばれる加工が施された部材を数本～数十本組み合わせることにより、収納棚から机まで、様々な用途に使える組立てキットです。



2010年に愛知県で開催された「生物多様性条約締約国会議」(COP10)の関連行事でお披露目され、その後、間伐材を使用し、リユースもできるという特徴が評価され、日本最大級の環境展示会「エコプロダクツ」内でも毎年活用されています。

「組手什」活用の応用例

東日本大震災の事例から



学習机

避難所生活が長期化する中で、子どもたちの学習机が無いとの意見を受けて、その場で学習机が制作されました。



救援物資の整理棚

段ボールに入っているため中身が見えずらく、かつ平置きでスペースを取っていた救援物資の整理棚などとしても活用されました。



情報掲示スペース

避難所に寄せられる様々な情報を掲示するパーティションや、パンフレット等を配布する棚としても使用されました。



仮設住宅や公民館等で再利用

避難所が閉鎖された後も、仮設住宅での棚として使用されたり、公民館の図書室の書棚などとして再利用されました。

東日本大震災での実績 (復興期での取組)

東日本大震災の復興期に、避難所に寄贈された組手什は、仮設住宅や公民館等で再利用されたほか、様々な場面で活用されました。



被災後に再建した図書館の書棚にも組手什による本棚が設置されました。



また、今日では被災地の緑の少年団で、環境教育や防災教育の一環で、異年齢でのグループワークとして組手什の制作体験も行われています。

東日本大震災の事例

様々なカタチで、被災地を応援しませんか。



店頭でお客様とともに募金 (プロントコーポレーション)

各店舗に募金箱を置くとともに、募金付きのメニューを設定して、お客様とともに募金



WEBでの募金の呼びかけ (緑のgoo)

募金の呼びかけページを設定し、コンテンツ利用や検索時の広告収入の一部を募金



協賛商品の開発や・イベントでの寄付 (全労済)

募金付きの火災保険を設けるとともに、チャリティイベントにおいて募金を呼びかけ

「緑の募金」 使途限定募金（平成28年熊本地震復興支援事業）

チャリティピンバッジのご案内

「緑の募金」による
“緑と木の温もり”を活かした
復興支援のシンボルとして、
熊本県産のスギを使用し、
熊本県内で加工した
チャリティピンバッジを
制作しました。



「緑の募金」へのチャリティで頒布

ピンバッジへのチャリティで、
被災地の“森づくり”、
“木づかい”、そして“仕事づくり”を
応援することができます。
「復興アクション」へのご協力、
お願い致します。

森づくり

（森林整備・緑化支援）



被災地の森林復旧や居住地周辺の緑化を支援。地元産間伐材を使用したプランター等の寄贈

木づかい

（生活環境改善支援）



プライバシーの保護等に向けて、間伐材等を使用した什器の寄贈。心のケアに向けて木のおもちゃ等を寄贈

仕事づくり

（雇用創出支援）



熊本県産のスギ等を活用し、熊本県内でのチャリティグッズの製作を通して、被災地周辺での雇用創出を支援

「緑の募金」への協力の方法

募金方法

1 郵便振替口座 ※

【口座番号】00150-0-173400

【口座名義】公益社団法人 国土緑化推進機構 緑の募金

2 銀行口座 ※

【口座番号】みずほ銀行 町村会館出張所 普通 1834713

【口座名義】公益社団法人 国土緑化推進機構 緑の募金

3 インターネット募金

詳しくは、以下のサイトをご覧ください。

<http://midorinobokin.net/>



※振込用紙等の通信欄に「使途限定募金（平成28年熊本地震復興支援事業）」とご記入下さい。また、振込料無料の専用郵便振替用紙をお送りいたします。

「緑の募金」の特徴

緑の募金にご寄附頂いた場合、以下の優遇措置や顕彰制度をご活用頂けます。
※詳しくは、「緑の募金」公式サイトをご覧ください。

● 優遇措置

【法人の場合】法人税を損金算入

【個人の場合】①所得税を税額控除・所得控除

②住民税（都道府県民税・市町村民税）を控除

● 顕彰制度

一定額以上のご寄付を頂いた企業・団体、個人に、以下の感謝状を贈呈

農林水産大臣感謝状 / 林野庁長官感謝状
国土緑化推進機構理事長感謝状

皆さんの組織でも、
取り組んでみませんか

募金箱の設置

職場や店舗等に募金箱を設置し、従業員や顧客に広く募金を呼びかけてみませんか。一定の範囲で、募金箱や緑の羽根等の各種資材を無償で提供いたします。

ピンバッジ募金

職場内や店舗等で、ピンバッジ募金を呼び掛けてみませんか。組織内外に機関紙・メールマガジンなどでまとめて呼びかけ頂ける場合は、ご相談下さい。

協賛キャンペーン等の実施

売り上げの一部を募金する協賛商品を開発したり、募金を呼びかけるチャリティ・イベント等を開催しませんか。協賛団体は、「緑の募金」のロゴマーク等をお使いいただけます。



復興アクション「森のチカラで、日本を元気に。」



「緑の募金」 使途限定募金
平成28年熊本地震復興支援事業のご案内

緑と木の温もりで 震災復興を応援しませんか？



公益社団法人 国土緑化推進機構

<https://www.green.or.jp/bokin/>



問い合わせ先

公益社団法人国土緑化推進機構（担当：募金部 秋元・小林、政策企画部 富永・木俣）

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-4 砂防会館別館5階

フリーダイヤル：0120-110-381 Tel：03-3262-8437 Fax：03-3264-3974 E-mail：bokin@green.or.jp